

第7章 地域別事業計画



東部地域 [駒込、巣鴨、西巣鴨、北大塚、南大塚]

東部地域は、人口7万1千人、約3万6千世帯が暮らす地域です。ここ5年間で人口が約4千人増加しており、北部地域に次いで人口密度(229人/ha)が高い地域です。また、駒込、巣鴨、大塚のJR各駅周辺に商業施設や学校施設が多くあることから、夜間人口よりも昼間人口の方が多くなっています。

放射状に伸びる幹線道路と地下鉄が通っているため、都心方向へのアクセスが利便な地域です。

中高層のマンションが急速に増えつつある一方、古くからの個性ある商店街が形成され、その周囲に住宅地が広がり、染井霊園や敷地規模の大きな教育施設等に、まとまりのあるみどりが残っています。

5月には満開のツツジに彩られる駒込駅の北西側一帯は、かつて「染井」と呼ばれ、江戸時代には植木の一大生産地として栄えました。「ソメイヨシノ」の発祥の地でもあり、駒込のブランドづくりに向け、「染井の里づくり」を進めています。また、我が国初の栄養学の専門大学としての歴史を誇る女子栄養大学駒込キャンパスがあり、「食」を通じた健康増進の建学理念が地域の中で実践されています。

巣鴨は旧中山道の街道口にあたります。道中安全祈願の「江戸六地藏」のひとつ真性寺や、「とげぬき地藏」の高岩寺の門前町としての地藏通り商店街は、「おばあちゃんの原宿」として連日多くの人々で賑わっています。また、白山通りの道路拡幅事業により景観が大きく変貌した沿道の巣鴨駅前商店街では、アーケードにソーラーパネルが設置され、人にも環境にもやさしい街をアピールしています。

西巣鴨は、寺院が集まる寺町として親しまれる街であり、仏教宗派の壁を越えて開学された大正大学があります。また、戦前には大都映画撮影所であった旧朝日中学校は、現在、文化拠点「にしすがも創造舎」として生まれ変わり、地域の人々を巻き込んだ文化創造拠点として多彩な事業が展開されています。

大塚は、戦前には池袋をしのぐ繁華街として栄えました。都内で唯一の都電荒川線が交差する大塚駅前には、8月には大塚阿波踊りの舞台となり、毎年、観客を熱い祭りの渦に巻き込みます。平成21年10月には、駅の南北自由通路が完成し、さらに駅前広場や駐輪場の整備など、街の顔となる駅周辺の整備が進められ、大きく生まれ変わろうとしています。

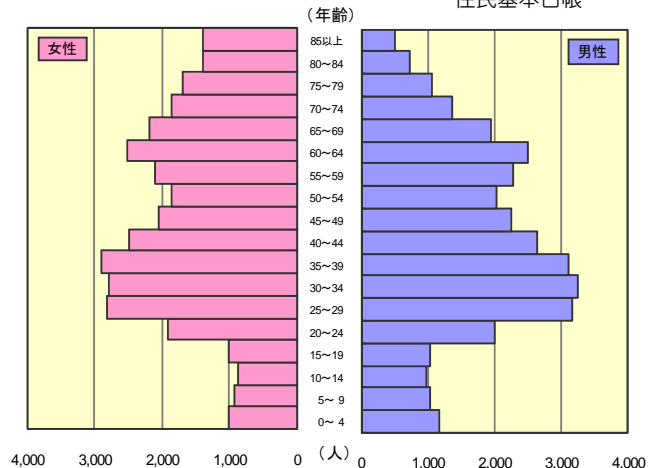


1	面積	311.4 ha
2	人口	71,445 人
3	人口密度	229 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	9.0 %
5	65歳以上の人口の割合	21.2 %
6	外国人人口の割合	6.5 %
7	一般世帯数	36,243 世帯
8	ファミリー世帯の割合	24.5 %
9	単独世帯の割合	58.9 %
10	昼間人口	79,260 人
11	昼間人口密度	255 人/ha
12	建築物の耐火率	70.4 %
13	一人あたりの公園面積	0.52 m ²
14	緑被率	11.9 %

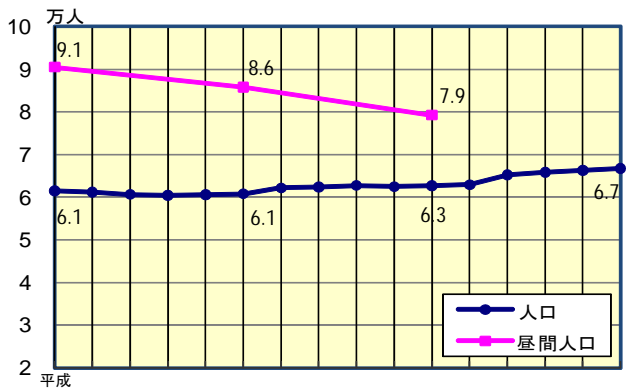
【2～6】住民基本台帳及び外国人登録(平成22年1月)
 【7～11】国勢調査(平成17年)
 【12】土地利用現況調査(平成18年)
 【13】公園・児童遊園現況一覧(平成21年4月)
 【14】緑被現況調査(平成21年)

人口の年齢構成 (平成22年1月)

住民基本台帳

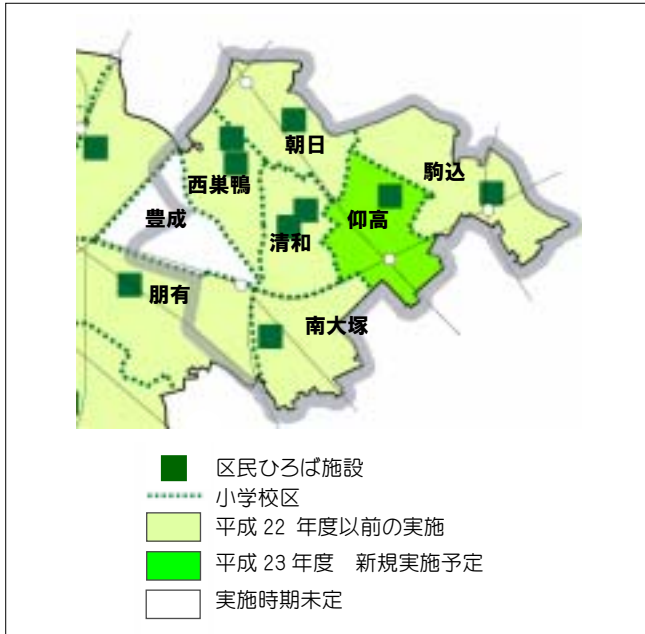


人口、昼間人口の推移

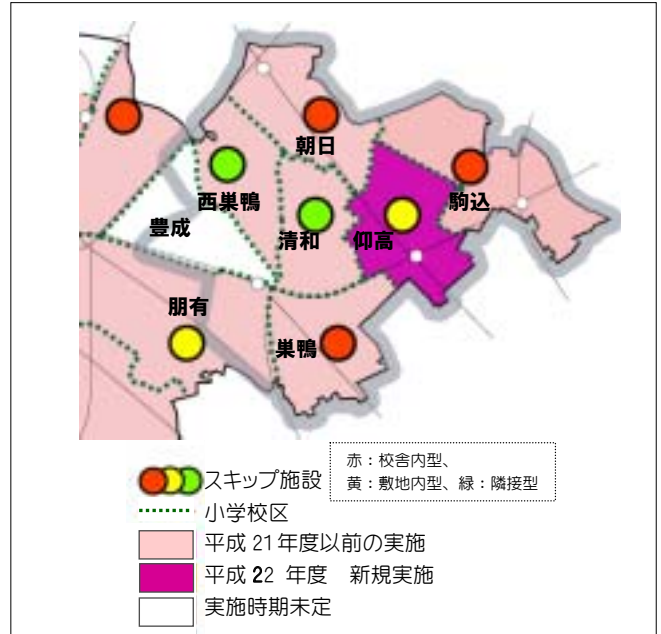


※人口は、住民基本台帳のみの数、昼間人口は、国勢調査

地域区民ひろばの展開状況

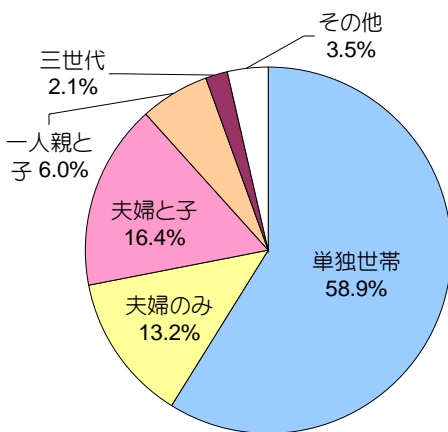


子どもスキップの展開状況



世帯の状況 (平成 17 年 10 月)

国勢調査

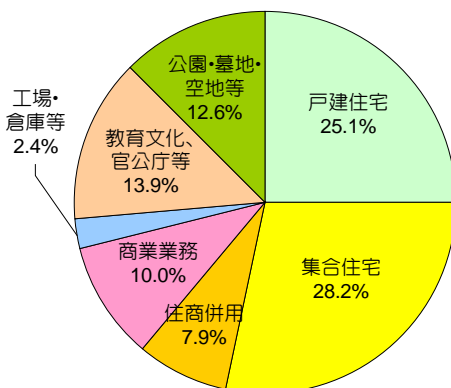


救援センターと対象区域



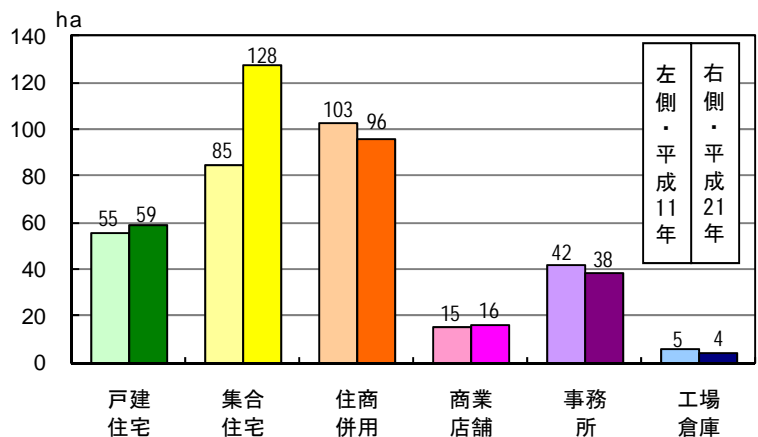
土地利用の状況 (平成 18 年)

土地利用現況調査(豊島区)



用途別・建物床面積の変化

土地建物調査(東京都主税局資料)



●東部地域

〔駒込、巣鴨、西巣鴨、北大塚、南大塚〕



72 子どもスキップ事業

121 放課後子ども教室 123 地域区民ひろばの推進

仰高小学校の敷地内において、平成 22 年度から小学生の放課後対策である「子どもスキップ」(敷地内型)を展開します。同時に、放課後子ども教室を実施します。

また、駒込区民集会所を転用して 23 年度中に「区民ひろば仰高」を展開します。

96 区立保育園の改築・改修

平成 22 年度に池袋第一保育園を増築します。また、平成 23 年度に西巣鴨第三保育園の大規模改修、24、25 年度に西巣鴨第二保育園の改築を行ないます。各園とも工事中は東部子ども家庭支援センターを改修して、仮園舎として使用します。

180 巣鴨地区街づくり計画策定

地元の皆さんとの合意形成及び関係機関との協議を経て、概ね 10 年後の目標像を描きます。

181 大塚駅周辺整備事業

南北自由通路の整備に続く事業として、自転車駐車場や駅前広場再整備計画を策定します。



121 放課後子ども教室

交通局巣鴨自動車営業所の建替え

桜の苗床

123 地域区民ひろばの推進
(23年度「区民ひろば仰高」実施)

72 子どもスキップ事業
(22年度「スキップ仰高」敷地内型実施)

248 地域ブランド創出支援事業

282 ICタグの地域館への導入

198 道路擁壁の整備
区が管理する道路擁壁の点検、工事を実施します。平成 22 年度は空蝉橋側壁の調査を行います。

199 橋梁点検調査
池袋大橋、西巣鴨橋、空蝉橋の点検調査を実施します。

202 自転車駐車場等の整備
JRの協力を得て、大塚駅南口の地下に概ね 1,000 台規模の自転車駐車場を整備します。

248 地域ブランド創出支援事業
駒込地域において、「住みたいまち」としてのブランド力を向上させるため、地域の歴史・文化を活かしたまちづくりを推進する地域団体の活動を支援します。

276 南大塚地域文化創造館の改修
当初予定していた工事を 1 年延期し、平成 23 年以降に外壁、屋上、施設内部及び耐震など、老朽化した施設の改修工事を行います。

282 ICタグの地域館への導入
平成 23 年度に巣鴨図書館、平成 24 年度に駒込図書館に ICタグと自動貸出機を導入します。

北部地域 [上池袋、池袋本町]

北部地域は、人口3万2千人、約1万7千世帯が暮らす地域です。人口密度(246人/ha)は、5つの地域で最も高くなっています。また、地域の約6割が、住宅系の土地利用となっているため、西部地域とともに、この北部地域では、夜間人口が昼間人口よりも多くなっています。

JRの板橋駅、東武東上線の北池袋駅、下板橋駅の3駅があり、交通利便性も高い地域です。

池袋本町や上池袋の地域は、かつての集落や水田、畑地が、計画的な基盤整備が行われないうちに宅地化したために、狭い道路が入り組み、住宅が密集する地域です。そのため、防災上の安全性を高める観点から、居住環境総合整備事業が進められています。

上池袋の明治通り沿道では、近年、中高層マンションの建設が相次ぎ、土地の高度利用が進み、人口の増加傾向が続いています。癌研究会附属病院の跡地では、住宅と公園を中心としつつ、防災にも配慮した規模の大きな開発が進められ、平成20年4月に約4,000㎡の上池袋東公園が開設され、平成21年4月には住宅部分の整備も完了しました。これにあわせてこれまでの「癌研通り」を「宮仲公園通り」と改め、新たな街並みが形成されています。

池袋本町は、板橋宿へと続く旧鎌倉街道沿いに発達した旧池袋村の本村の名を受け継ぐ地域であり、明治期までは、池袋付近における中心的な集落が形成されていました。村の鎮守である氷川神社や、現在では、緑道として整備された旧谷端川など、歴史を感じさせる落ち着いた雰囲気が感じられます。

この地域には、池袋中学校と池袋第二小学校、文成小学校がありますが、今後、二つの小学校を統合して改築するとともに、池袋中学校についても改築を計画しています。

また、清掃車庫跡地における広場整備や、防災センター用地、学校統合により生まれる用地の活用、板橋駅のJR社宅跡地の開発など、今後10年間のなかで、街づくりが大きく展開することが予想され、新たな発展が期待できる地域でもあります。

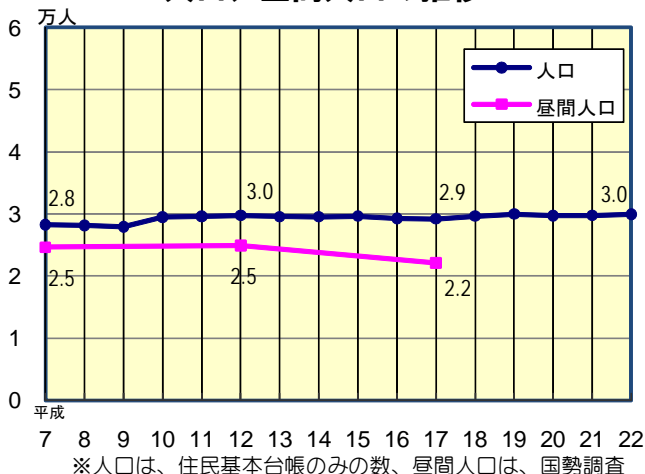
さらに長期的には、地域の縦横に計画されている補助82号線、73号線の整備も課題となっています。



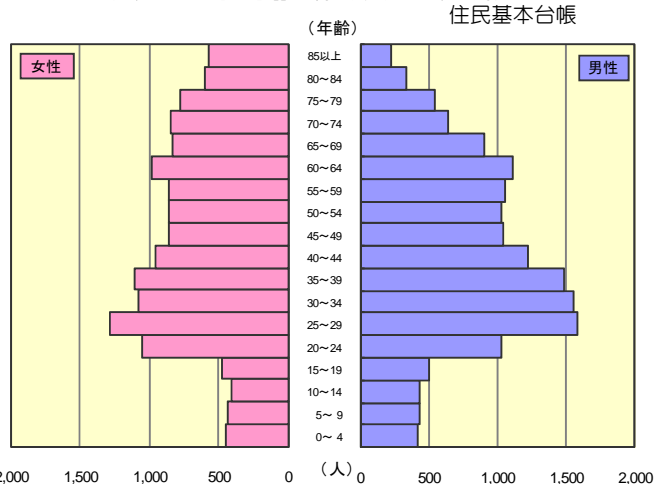
1	面積	131.7 ha
2	人口	32,388 人
3	人口密度	246 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	8.6 %
5	65歳以上の人口の割合	21.0 %
6	外国人人口の割合	7.6 %
7	一般世帯数	16,846 世帯
8	ファミリー世帯の割合	22.8 %
9	単独世帯の割合	61.6 %
10	昼間人口	22,129 人
11	昼間人口密度	168 人/ha
12	建築物の耐火率	59.6 %
13	一人あたりの公園面積	0.92 ㎡
14	緑被率	10.3 %

- [2~6] 住民基本台帳及び外国人登録(平成22年1月)
- [7~11] 国勢調査(平成17年)
- [12] 土地利用現況調査(平成18年)
- [13] 公園・児童遊園現況一覧(平成21年4月)
- [14] 緑被現況調査(平成21年)

人口、昼間人口の推移



人口の年齢構成 (平成22年1月)



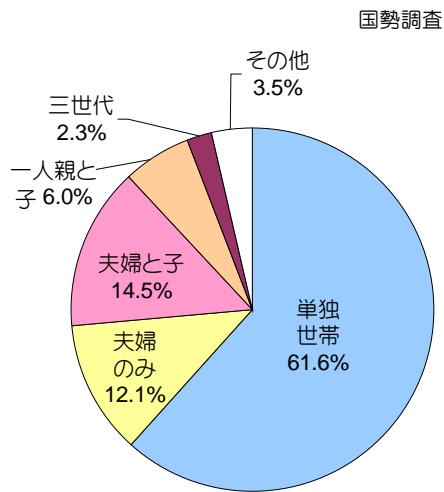
地域区民ひろばの展開状況



子どもスキップの展開状況



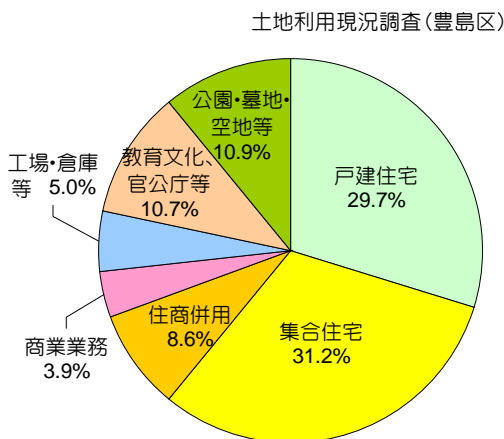
世帯の状況 (平成17年10月)



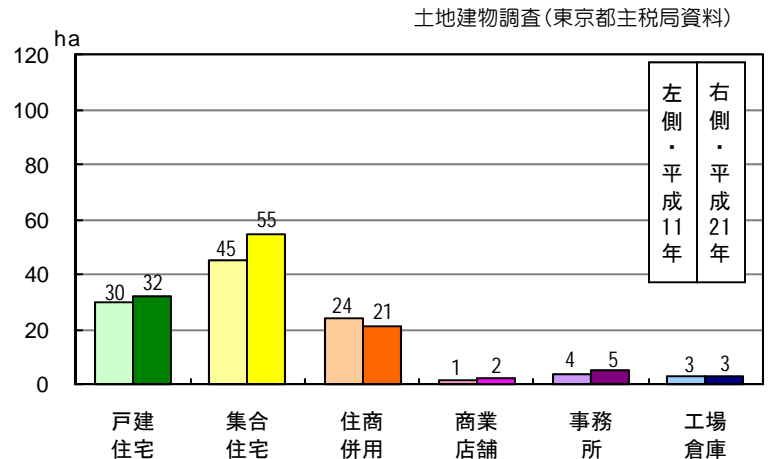
救援センターと対象区域



土地利用の状況 (平成18年)



用途別・建物床面積の変化





196 堀之内人道橋に替わる立体横断施設の建設
 老朽化が進んでいる人道橋の撤去を行い、上池袋と池袋本町の連絡機能の維持・確保については、代替施設として平成24年度の完成を目指し立体横断施設の建設を検討します。

199 橋梁点検調査
 池袋大橋、西巣鴨橋、空蟬橋の点検調査を実施します。

218 居住環境総合整備事業（上池袋地区）
 主要生活道路として位置づける「B1路線」及び「B4路線」の拡幅整備に向けた調査を行います。

219 居住環境総合整備事業（池袋本町地区）
 平成24年度オープンに向け、清掃車庫跡地に公園を整備します。

環境総合整備事業(池袋本町地区)

JR社宅跡地の開発計画

主要生活道路B4路線

平成22年度民営化

218 居住環境総合整備事業(上池袋地区)

施設の建設

平成23年1月~27年2月仮移転予定

「スキップ豊成」の実施後、区民ひろばへ転用

ラザとしま省エネ改修

主要生活道路B1路線

「スキップ豊成」の実施を検討

育園の改築・改修

福祉施設等の誘致を検討

199 橋梁点検調査

仮園舎設置

96 区立保育園の改築・改修

96 区立保育園の改築・改修

中央地域 [東池袋、南池袋(一部)、西池袋(一部)、池袋]

中央地域は、人口4万7千人、約2万4千世帯が暮らす地域です。この地域の昼間人口は、約17万人にもなり、昼間人口密度は626人/haです。单身男性の若年者が多く住むのもこの地域の特徴です。

一日263万人の乗降客がある日本有数のターミナル池袋駅を中心として、東京の副都心として、また、豊島区を中心として、商業、業務、文化の施設や機能が集積しています。

東京芸術劇場、個性的な劇場の集積など、都内でも有数の劇場密集地であり、池袋演劇祭も今年は22回を数えるなど、池袋副都心は「演劇の街・池袋」としての特徴を持っています。

平成19年にオープンした新劇場「あうるすぽっと」は、質の高い劇場として高く評価され、年間の来館者数が100万人を超える中央図書館とともに、池袋の新たな文化発信拠点となっています。

また、赤レンガに薫る絡まる風格ある立教大学や平成20年4月に池袋キャンパスを開校した帝京平成大学などの数多くの教育機関の立地する街でもあります。

中央地域では、環状5の1号線、補助81号線、補助172、173号線、さらには環状6号線など、都市計画道路の整備が大きく進みつつあります。

さらに、池袋西口駅前広場の約40年ぶりのリニューアルや、新庁舎の建設が具体化する一方、東西デッキの整備、LRT構想など、池袋副都心は、今後大きく生まれ変わる可能性を秘めています。

平成20年6月には、地下鉄副都心線が開業し、池袋副都心は、駅の東西の特徴を活かしつつ、より広がりのある回遊性の高い都市づくりへの展開を強く求められています。

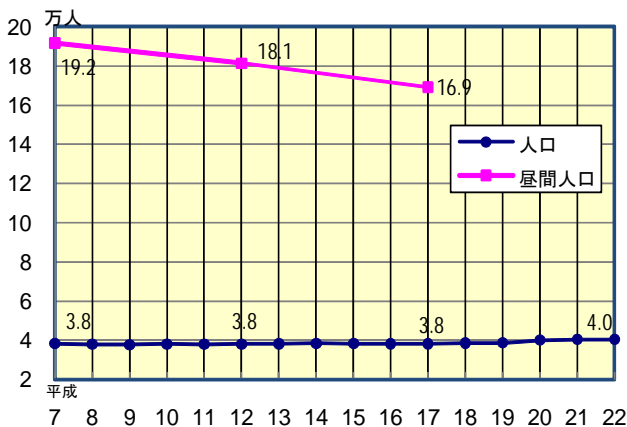
多くの人々が住む副都心、駅を中心とした比較的コンパクトな姿、みどり豊かなグリーン大通りなど、こうした特徴を強味として活かすとともに、都心部や新宿、渋谷などに追いつくという発想ではなく、池袋駅の東西南北の一体性を重視しながら、「文化によるにぎわいの創出」と「人と環境への優しさ」をコンセプトとして、将来の“グランドビジョン”を描き、東京のなかでも独自の個性と存在感を発揮する街に成長していくことが必要です。



1	面積	270.1 ha
2	人口	46,540 人
3	人口密度	172 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	7.1 %
5	65歳以上の人口の割合	19.3 %
6	外国人人口の割合	13.2 %
7	一般世帯数	24,343 世帯
8	ファミリー世帯の割合	20.8 %
9	単独世帯の割合	63.9 %
10	昼間人口	169,212 人
11	昼間人口密度	626 人/ha
12	建築物の耐火率	81.1 %
13	一人あたりの公園面積	1.21 m ²
14	緑被率	8.7 %

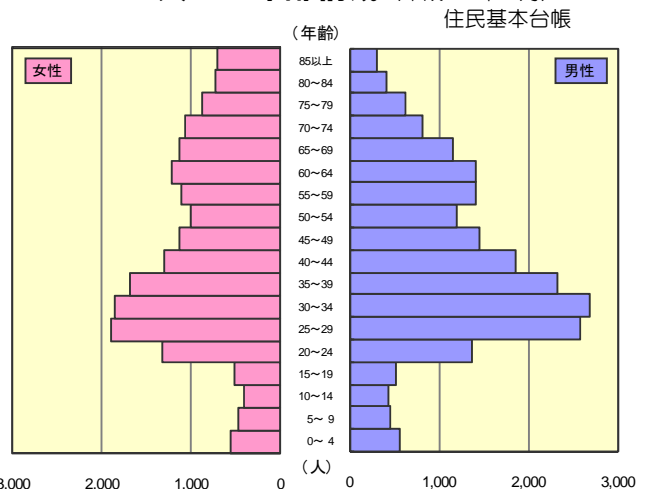
- [2~6] 住民基本台帳及び外国人登録 (平成22年1月)
- [7~11] 国勢調査 (平成17年)
- [12] 土地利用現況調査 (平成18年)
- [13] 公園・児童遊園現況一覧 (平成21年4月)
- [14] 緑被現況調査 (平成21年)

人口、昼間人口の推移



※人口は、住民基本台帳のみの数、昼間人口は、国勢調査

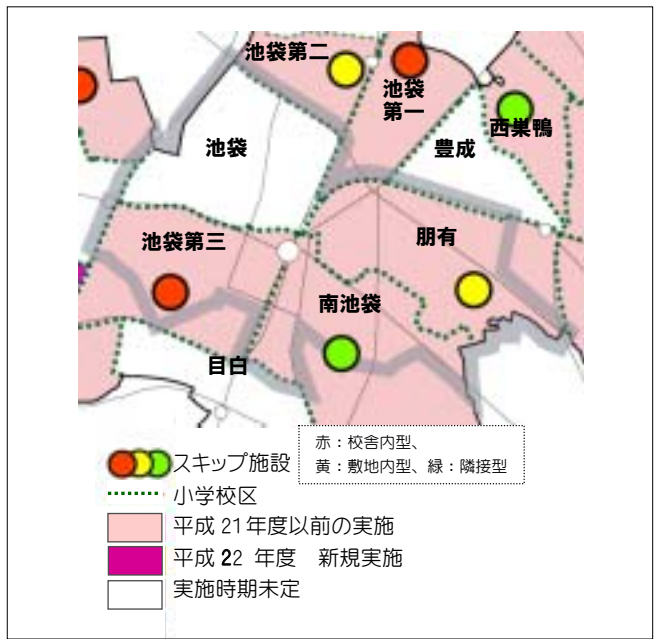
人口の年齢構成 (平成22年1月)



地域区民ひろばの展開状況

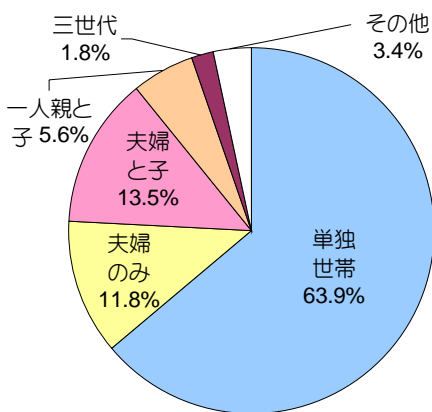


子どもスキップの展開状況



世帯の状況 (平成 17 年 10 月)

国勢調査

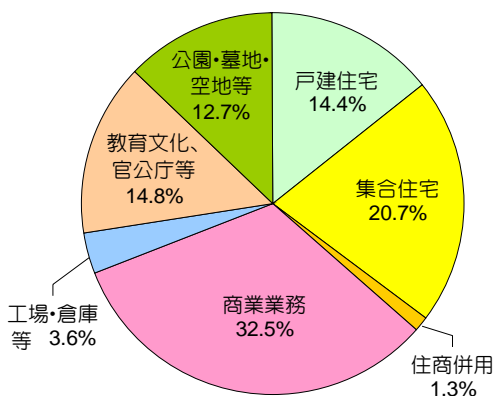


救援センターと対象区域



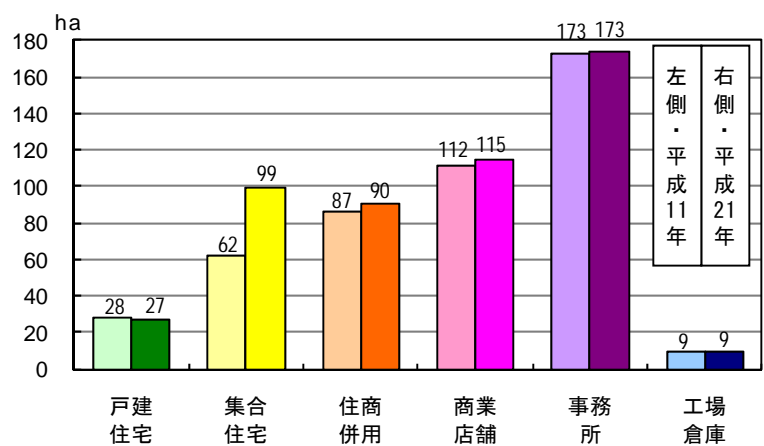
土地利用の状況 (平成 18 年)

土地利用現況調査(豊島区)



用途別・建物床面積の変化

土地建物調査(東京都主税局資料)



●中央地域

〔東池袋、南池袋(一部)、西池袋(一部)、池袋〕

96 区立保育園の改築・改修

平成 23 年度に池袋第三保育園、24 年度に池袋第五保育園の大規模改修を行ないます。

各園とも工事中は旧大明小学校校庭の一部に仮園舎を設置します。

117 小・中学校の改築(池袋第三小学校)

平成 28 年 4 月開校に向けて、基本構想(案)を策定して区長に提言するため、22 年度に学校、PTA、地域等による考える会を設立します。

117 小・中学校の改築(西池袋中学校)

西池袋中学校の仮校舎を旧真和中学校の敷地に整備し、平成 24 年 4 月の新校舎開校に向けて 22、23 年度に建替えを行います。

139 公園の改修及び再整備(南池袋公園)

東京電力地下変電所設置工事に伴い、平成 22 年度から部分的な開放を実施します。平成 26 年度の整備完了を目指し、より快適な公園として再整備します。

143 小・中学校校庭芝生化事業

環境配慮によるCO2削減や、みどりあふれる教育環境づくり、環境学習等の効果に着目し、平成 22 年度に南池袋小学校の校庭を芝生化します。

145 池袋西口駅前広場モザイカルチャー設置事業

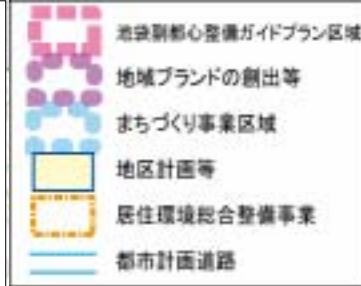
環境のシンボルとして、池袋西口駅前広場の改修にあわせて「モザイカルチャー」を設置します。

158 健康プラザとしま省エネ改修

「健康プラザとしま」に対し、高効率照明、太陽光発電装置を設置します。

172 池袋副都心整備ガイドプラン推進事業

「池袋副都心グランドビジョン」実現に向け、都市再生緊急整備地域の指定も視野にいれて策定した「ガイドプラン」を推進していきます。22 年度については造幣局を含む「東池袋まちづくり」のガイドライン策定に取り組んでいきます。



173 東池袋四丁目市街地再開発事業(第2地区)

平成 22 年度を目途として、緑のネットワークづくりや地下歩行者用通路、都市型住宅等を整備します。

174 南池袋二丁目A地区市街地再開発事業

平成 22 年度は事業計画の認可を受け、実施設計に進みます。この地区は新庁舎整備の計画地であり、平成 26 年度に施設建築物の工事完了を目指します。

175 南池袋二丁目地区街区再編街づくり推進事業

B・C地区について、地元地権者と共にまちづくりを考える説明会・懇談会を実施していきます。

179 新庁舎整備計画の推進

南池袋A地区において整備する新庁舎計画について、再開発建物の設計にあわせ、庁舎室内のフロアレイアウト計画作成に取り組みます。

南部地域 [雑司が谷、高田、目白、南池袋(一部)、西池袋(一部)]

南部地域は、人口4万3千人、約2万3千世帯が暮らす地域です。夜間人口より昼間人口の方が多く、中央地域とともに人口密度(172人/ha)が区内で最も低い地域となっています。

地域全体では、土地利用の52%が住宅系であり、学習院大学や雑司ヶ谷霊園など、大規模な緑地をはじめ、みどり豊かな地域でもあり、緑被率も20.8%と5つの地域の中でも最も高くなっています。

雑司が谷は、池袋に隣接する地域ながら、鬼子母神、法明寺などの寺社、古い家並み、文化人が眠る雑司ヶ谷霊園、手塚治虫が創作活動を行った並木ハウス、旧宣教師館、東京音楽大学など、歴史と文化を感じさせる魅力に溢れ、静かでどこか懐かしい雰囲気漂う街です。こうした特色を活かした街づくりのため、平成22年度には「(仮称)豊島区雑司が谷情報ステーション」を開設します。

平成20年6月、地下鉄副都心線「雑司が谷駅」が開業しましたが、環状5の1号線の整備工事も進められており、交通利便性の向上が期待されます。

目白は、目白通りを中心に、学習院大学や日本女子大学などが立地する学生の街であるとともに、個性的なギャラリーや切手の博物館、歴史を感じさせる教会や洋館など山手文化が息づく街です。さらに、西武池袋線を挟み、フランク・ロイド・ライトが設計した重要文化財・自由学園明日館、鈴木三重吉により創刊された童話雑誌「赤い鳥」に因んで命名された数寄屋造りの茶室「赤鳥庵」を配した回遊式庭園「目白庭園」など、大正デモクラシーの息吹を伝える文化資源にも恵まれています。また、目白通りから一歩入ると、東京のなかでもブランド力の高い閑静な住宅地が形成され、成熟した佇まいを見せています。

目白から高田にかけては、神田川に向けて急傾斜地となっており、「宿坂」や「胸突坂」など、多くの坂や学習院大学南側のみどり豊かな崖線は、この地域ならではの景観を見せています。坂を下った神田川沿いは桜の名所でもあり、目白の地名の由来である目白不動を祀る金乗院などの寺社が点在しています。

また、高田は、昔から工場が多く立地する地域でしたが、近年では、事務所やマンションへの転用が進みつつあります。高田は、現在でも、手描き友禅など江戸の伝統工芸が受け継がれている街でもあります。



1	面積	250.9 ha
2	人口	43,167 人
3	人口密度	172 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	9.7 %
5	65歳以上の人口の割合	19.1 %
6	外国人人口の割合	6.1 %
7	一般世帯数	22,815 世帯
8	ファミリー世帯の割合	25.7 %
9	単独世帯の割合	58.0 %
10	昼間人口	58,679 人
11	昼間人口密度	234 人/ha
12	建築物の耐火率	66.0 %
13	一人あたりの公園面積	0.81 m ²
14	緑被率	20.8 %

【2～6】住民基本台帳及び外国人登録(平成22年1月)

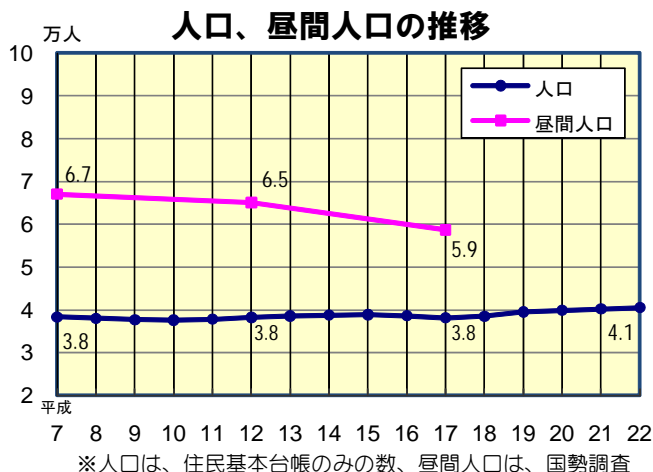
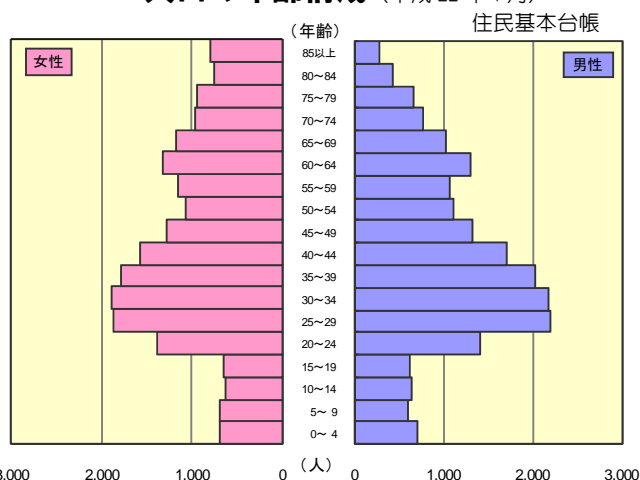
【7～11】国勢調査(平成17年)

【12】土地利用現況調査(平成18年)

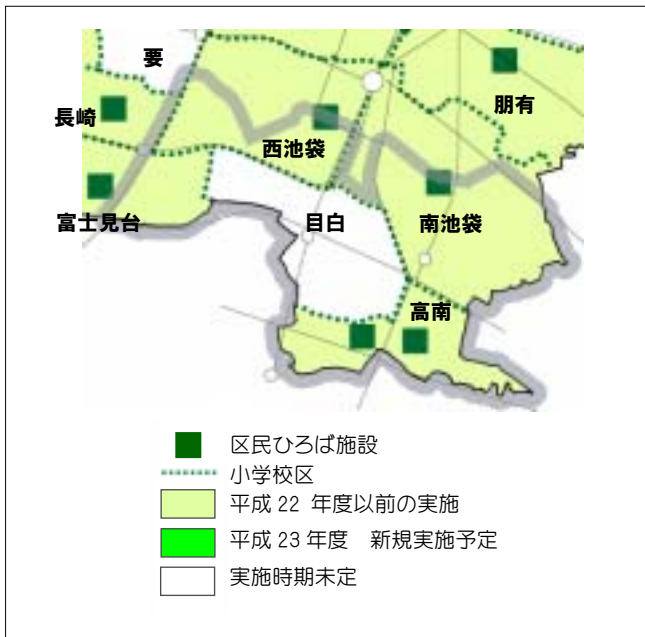
【13】公園・児童遊園現況一覧(平成21年4月)

【14】緑被現況調査(平成21年)

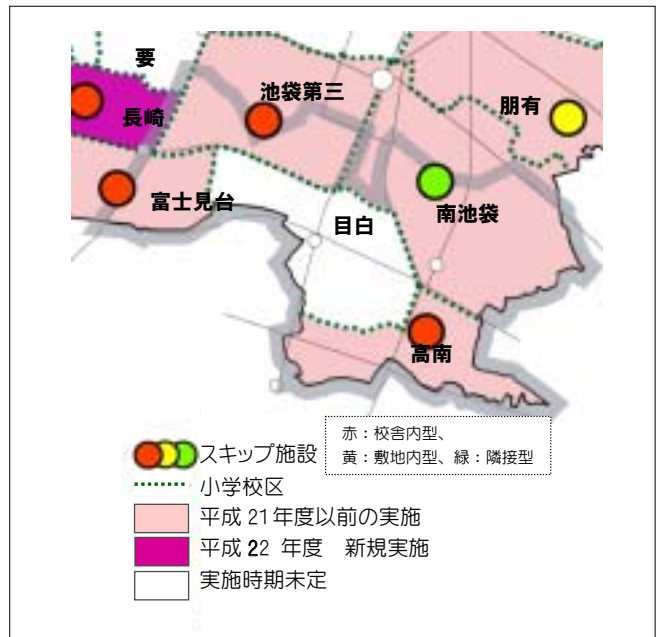
人口の年齢構成 (平成22年1月)



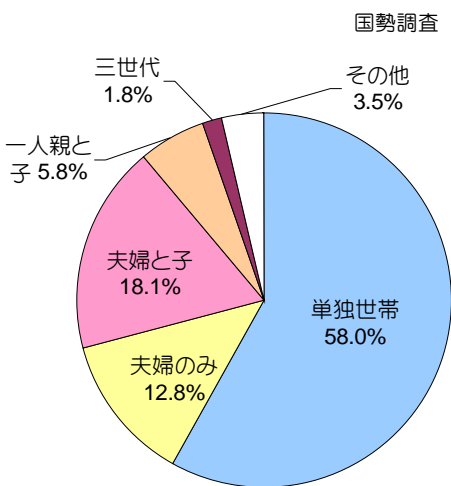
地域区民ひろばの展開状況



子どもスキップの展開状況



世帯の状況 (平成 17 年 10 月)

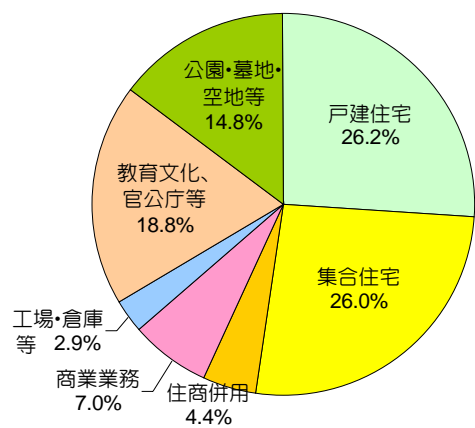


救援センターと対象区域



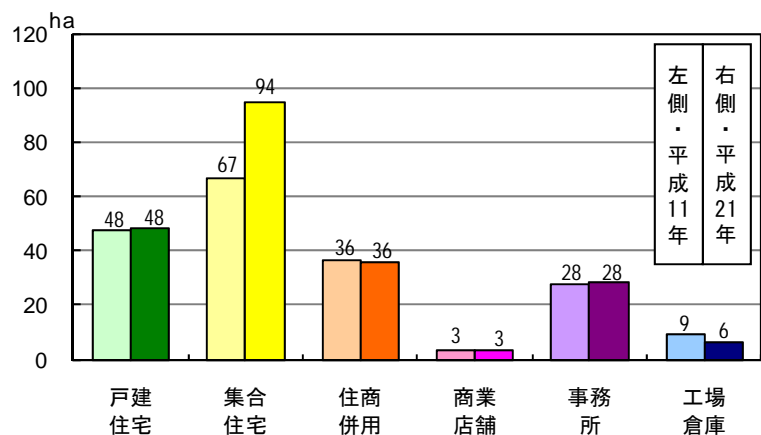
土地利用の状況 (平成 18 年)

土地利用現況調査(豊島区)



用途別・建物床面積の変化

土地建物調査(東京都主税局資料)



●南部地域

〔雑司が谷、高田、目白、南池袋(一部)、西池袋(一部)〕



117 小・中学校の改築(目白小学校)

目白小学校の仮校舎を旧真和中学校の敷地に整備し、平成 26 年 4 月の新校舎開校に向けて 24、25 年度に建替えを行います。なお、仮校舎については、旧真和中学校の施設を使用します。

117 小・中学校の改築(池袋第三小学校)

平成 28 年 4 月開校に向けて、基本構想(案)を策定して区長に提言するため、22 年度に学校、PTA、地域等による考える会を設立します。

117 小・中学校の改築(西池袋中学校)

西池袋中学校の仮校舎を旧真和中学校の敷地に整備し、平成 24 年 4 月の新校舎開校に向けて 22、23 年度に建替えを行います。

139 公園の改修及び再整備(南池袋公園)

東京電力地下変電所設置工事に伴い、平成 22 年度の途中から部分的な開放を実施します。平成 26 年度の整備完了を目指し、より快適な公園として再整備します。

143 小・中学校校庭芝生化事業

環境配慮によるCO2削減や、みどりあふれる教育環境づくり、環境学習等の効果に着目し、平成 22 年度に南池袋小学校の校庭を芝生化します。

174 南池袋二丁目A地区市街地再開発事業

平成 22 年度は事業計画の認可を受け、実施設計に進みます。この地区は新庁舎整備の計画地であり、平成 26 年度に施設建築物の工事完了を目指します。

175 南池袋二丁目地区街区再編街づくり推進事業

B・C地区について、地元・地権者と共にまちづくりを考える説明会・懇談会を実施していきます。

179 新庁舎整備計画の推進

南池袋A地区において整備する新庁舎計画について、再開発建物の設計にあわせ、庁舎室内のフロアレイアウト計画作成に取り組みます。

182 椎名町駅周辺整備事業

山手通りの椎名橋下空間を活用して、駅前広場や自転車駐車を整備するとともに、駅舎改善(バリアフリー化)に合わせて横断施設を整備します。平成 24 年度の完成を予定しています。

197 目白駅周辺の区道整備

目白ブランドの向上に向け、「学習院橋の坂」における電線地中化等の検討、「F.L. ライトの小路」における景観に配慮した道路整備の検討を行います。

246 勤労福祉会館の改修

予定していた平成 22 年度からの大規模改修を平成 24 年度に延期しました。工事では外壁、屋上、トイレ、内部設備等を更新します。

248 地域ブランド創出支援事業

目白地域において、「住みたいまち」としてのブランド力を向上させるため、地域の歴史・文化を活かしながら、個性と魅力を高める総合的なまちづくりを推進します。

256 トキワ荘・並木ハウス関連事業(第2ステージ)

手塚治虫が創作活動を行った「並木ハウス」が現存する雑司が谷地域において、歴史や文化を活かした情報ステーションの開設・運営を行います。

257 地域ビジョンの推進

雑司が谷において、区民参加の懇談会を開催しつつ、雑司が谷の個性を活かしたまちづくりのアクションプランを協議、推進します。



西部地域 [南長崎、長崎、千早、要町、高松、千川]

西部地域は、人口7万人、約3万8千世帯が暮らす地域です。夜間人口が昼間人口よりも多く、約2万人上回っています。5つの地域のなかでは、南部地域とともにファミリー世帯の割合が25%を超え、区内ではファミリー世帯の構成が高い地域となっています。

土地利用は住宅系が約7割を占め、千早、千川、高松の一部には、敷地規模が比較的大きな戸建住宅が多く、生け垣や庭木などのみどり豊かな住宅地があります。また、大正から昭和初期にかけて、広い範囲で耕地整理が行われたため、地域の大部分には碁盤の目状に道路が走っています。その一方で近年は中高層のマンションが増えつつあります。

この地域には、有楽町線の要町駅と千川駅、西武池袋線の椎名町駅と東長崎駅、そして平成9年には、地下鉄大江戸線の落合南長崎駅が開業し、さらに平成20年6月の副都心線開通により、要町駅と千川駅からは、池袋で乗り換えることなく、新宿、渋谷方面への移動が可能になり、交通利便性がさらに高まりました。

長崎、千早、要町などの旧長崎町地区は、江戸の近郊農村として栄え、五穀豊穡を願う長崎神社の「獅子舞」や、富士講信仰により造られた浅間神社の富士塚などの貴重な民俗文化が今に伝えられています。

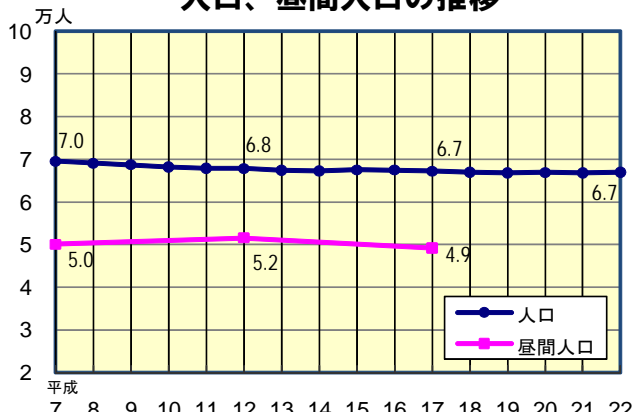
また、大正末から昭和初期にかけて、多数のアトリ工付き借家群が建てられ、若い画家や詩人が住み、創作活動に切磋琢磨する「アトリエ村」が形成されていました。彼らは夜毎池袋に繰り出しては芸術論をたたかき、自由でモダニズムに溢れた交流を繰り広げました。そうした光景を詩人小熊秀雄は、パリに因んで「池袋モンパルナス」と称しました。アトリエ村のほとんどは戦災で焼失してしまいましたが、「池袋モンパルナス」ゆかりの芸術家である熊谷守一の旧宅跡に建てられた熊谷守一美術館を、平成19年度に区立施設とし新たに開設し、地域の歴史を受け継いでいくことにしました。そして、南長崎（旧椎名町）には、手塚治虫をはじめ、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、藤子不二雄等の日本漫画史にその名を刻む多くの漫画家たちが、若き青春の日々を過ごした「トキワ荘」がありました。老朽化により取り壊されましたが、「トキワ荘」の名は漫画ファンの聖地として語り継がれています。平成21年4月、近隣の南長崎花咲公園内にトキワ荘の記念碑が設置され、街の新しい名所となっています。



1	面積	336.9 ha
2	人口	69,672 人
3	人口密度	207 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	8.3 %
5	65歳以上の人口の割合	22.4 %
6	外国人人口の割合	3.8 %
7	一般世帯数	37,971 世帯
8	ファミリー世帯の割合	25.2 %
9	単独世帯の割合	58.2 %
10	昼間人口	49,193 人
11	昼間人口密度	146 人/ha
12	建築物の耐火率	55.3 %
13	一人あたりの公園面積	0.66 m ²
14	緑被率	12.3 %

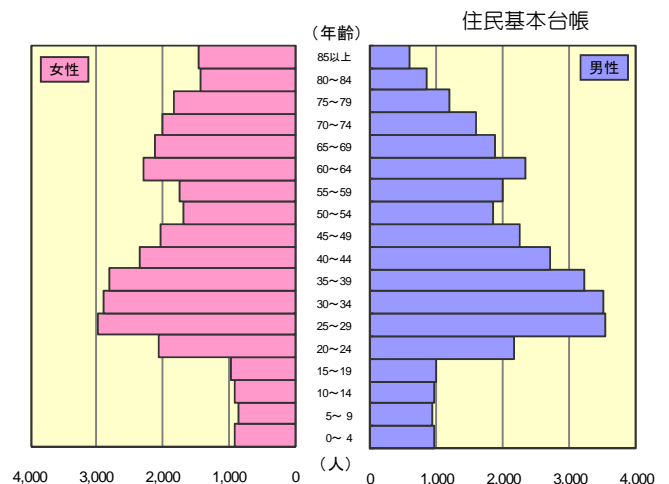
【2～6】 住民基本台帳及び外国人登録（平成22年1月）
 【7～11】 国勢調査（平成17年）
 【12】 土地利用現況調査（平成18年）
 【13】 公園・児童遊園現況一覧（平成21年4月）
 【14】 緑被現況調査（平成21年）

人口、昼間人口の推移



※人口は、住民基本台帳のみの数、昼間人口は、国勢調査

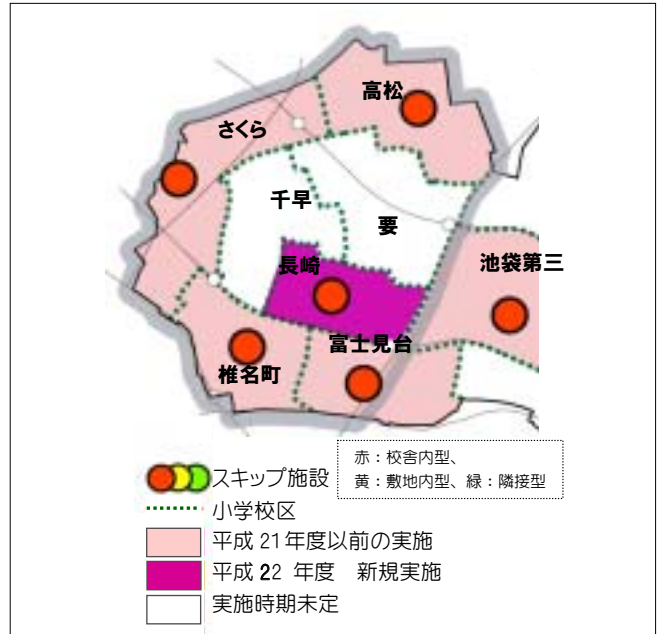
人口の年齢構成（平成22年1月）



地域区民ひろばの展開状況

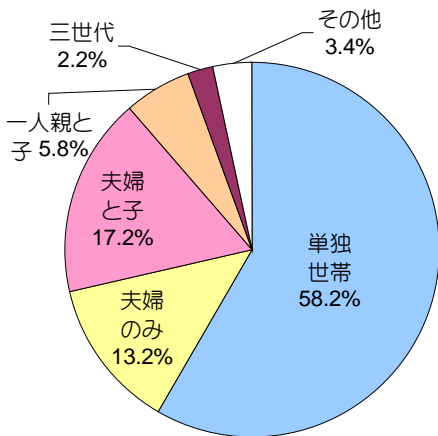


子どもスキップの展開状況



世帯の状況 (平成 17 年 10 月)

国勢調査

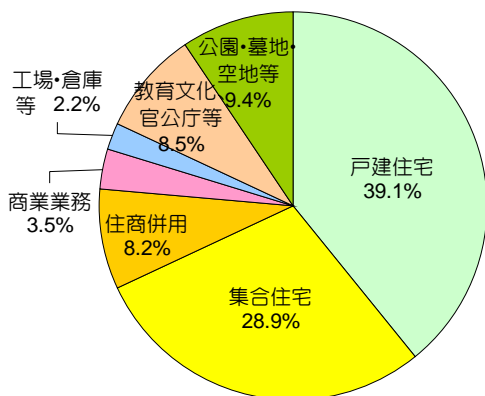


救援センターと対象区域



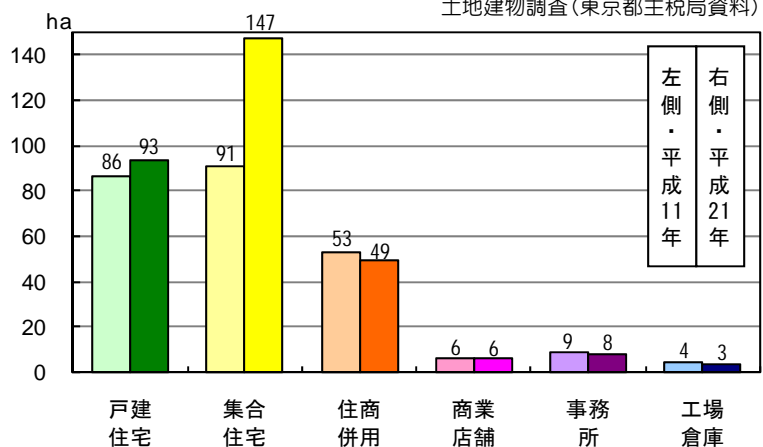
土地利用の状況 (平成 18 年)

土地利用現況調査(豊島区)



用途別・建物床面積の変化

土地建物調査(東京都主税局資料)



●西部地域

〔南長崎、長崎、千早、要町、高松、千川〕



45 地域密着型サービス等の基盤整備

民間事業者に区有地を貸付け、介護保険施設（地域密着型サービス）を整備します。

72 子どもスキップ事業 121 放課後子ども教室

長崎小学校において、平成 22 年度から、校舎内型の「子どもスキップ」、放課後子ども教室を実施します。

73 中高生センター運営事業

74 中高生センターの整備（西部地区施設）

長崎第二児童館の施設改修を行ない、中高生センター（ジャンプ）事業を実施します。

77 「愛の家ファミリーホーム・愛の家保育園」建替え支援

老朽化にともなう施設改築を円滑に進めるため、区が仮施設用地の一部を提供するとともに、整備経費の一部を補助します。

106 特別支援教育の推進事業

長崎小学校において、平成 23 年度に情緒障害等通級指導学級（1 学級、定員 10 名）を開設します。

117 小・中学校の改築（西池袋中学校）

西池袋中学校の仮校舎を旧真和中学校の敷地に整備し、平成 24 年 4 月の新校舎開校に向けて 22、23 年度に建替えを行います。

124 地域区民ひろば施設の改修

南長崎第四区民集会室を 24 年度に改修し、現在南長崎幼稚園に併設している「区民ひろば椎名町」を移転して、25 年度より事業を展開します。

139 公園の改修及び再整備（椎名町公園）

山手通りの椎名橋の架け替え工事完了に合わせ、平成 22 年度に、椎名町公園に仮設している自転車駐輪場を移設します。

140 西椎名町公園の拡張整備

豊島プールの解体に伴い、平成 22 年度に防災機能を充実させた公園の暫定整備を行います。

143 小・中学校校庭芝生化事業

環境配慮によるCO2削減や、みどりあふれる教育環境づくり、環境学習等の効果に着目し、平成 22 年度に長崎小学校の校庭を芝生化します。

182 椎名町駅周辺整備事業

山手通り椎名橋下空間を活用し、駅前広場や自転車駐輪場を整備するとともに、駅舎改善（バリアフリー化）に合わせて横断施設を整備します。平成 24 年度完成を目指します。

202 自転車駐輪場等の整備

要町駅周辺に自転車置場（路上約 245 台）を増設します。

255（仮称）西部地域複合施設文化拠点準備事業

（仮称）西部地域複合施設の文化拠点における展示等活動計画の検討を進めます。ミュージアム系機能の 3 分野（郷土資料分野、美術分野、文学・まんが分野）について、相互の連携・融合を図りながら展示等の事業計画の検討を行います。

256 トキワ荘・並木ハウス関連事業（第 2 ステージ）

マンガ文化で有名な南長崎地域において、街全体のブランド力を高めるため、トキワ荘跡地周辺に案内板等を設置するとともに、マンガ資料館の開設調査・検討を行います。

258（仮称）西部地域複合施設の整備

平成 26 年度の開設を目指し、西部区民事務所、西部保健福祉センター、長崎健康相談所、千早地域文化創造館、千早図書館、地域区民ひろば、文化施設の機能を備えた複合施設を整備します。

また、工事期間中、西部区民事務所の仮事務所を旧第六出張所に設置します。

統合した施設は、施設整備の経費に充てるため、27 年度以降廃止し、資産活用（売却・貸付）を図ります。

なお、郷土資料館の移転についても検討します。

282 ICタグの地域館への導入

平成 25 年度に千早図書館に IC タグと自動貸出機を導入します。

286（仮称）南長崎中央公園の整備

長崎中学校跡地に、スポーツ・防災の機能を備えた公園を整備します。

また、敷地の一部を民間事業者へ貸付け、まちのにぎわい等の創出と財源確保を図ります。

24 年度：プール・体育館・駐輪場等開設

25 年度：多目的広場・公園等開設







未来戦略推進プラン2010



—基本計画・実施計画—

平成22年（2010年）3月

編集・発行 豊島区 政策経営部 企画課

〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1

TEL (03) 3981-1111（代表）



